

(様式⑦-1 小学校・中学校)

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

中学校区におけるめざす子ども像 夢をもち続ける子ども　　人を思いやる子　　学び続ける子	堺市立　　白鷺小　　学校 校長　　　福山　和久
--	----------------------------

令和6年度 重点目標　　「子どもの可能性を伸ばす教育の充実」 ・個別最適な学び・・・ICTの活用や専門家との連携により、個に応じたきめ細かな指導の実践に取り組む。 ・個性や多様性の理解・・・一人ひとりに居場所があり、多様性を認め合える集団づくりに取り組む。 ・家庭や地域等との連携・・・保護者や地域の方々、関係機関と連携し、子どもの夢をはぐくむ教育に取り組む。

確かな学びの現状 ・堺版授業スタンダードやユニバーサルデザインを意識した白鷺スタンダードによる授業づくりに取り組み、授業のめあてが明確に提示されている。また、学校で学年に応じた授業の決まりのもと、授業展開や子どもが振り返りやすいノートづくりに継続的に取り組んでいる。 ・学習意欲を高め、学びを深めることを意識し、教育ICT機器(タブレット端末や大型テレビ等)を効果的に活用する工夫がみられる。 ・「好きな授業がある」「学習に集中している」児童の割合は高い。(市学習・生活状況調査) ・様々な教科で、目的に応じて書くことを大切にしていることから、表現力が高められている。論理的な思考力・表現力の育成のために、国語科を中心に学んだ力を他教科において汎用することができるとする活用力を身につけさせたい。 ・授業における問題解決や交流場面の設定により、自己肯定感や豊かな人間関係を築く力が培われている。一方で、個人で課題を設定し、計画を立て解決していくことには十分につながっていない。	豊かな心・健やかな体の現状 ・朝食、学習準備などの基本的な生活習慣が身についている児童は多い。(市学習・生活状況調査) ・「将来の夢や目標をもっている」「決めた目標に向かって努力する」児童の割合は高い。(市学習・生活状況調査) ・「周りにこまっている人がいる時、自分にできることはないかを考えている」と思う児童の割合は高い。(市学習・生活状況調査) ・進んで行動をする児童が多い。(学校教育アンケート) ・自分があいさつをしていると答えている児童の割合は高い。(市学習・生活状況調査) ・外で体を動かすことは好きである児童は、総体的に多い。(市学習・生活状況調査) ・長距離走や縄跳びなどの取組により個々の体力の増進を図っている。 ・前年度は体育大会を実施することができ、体育学習の成果を発揮する機会や各学年の演技を通じて学年間の交流の場を作ることができた。
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	総合的な学力の育成	総合的な学力を向上させるため、基礎・基本、考える力を身につける	●各教科の基礎・基本の定着や幅広い知識の獲得に向けて、始業前の時間を活用した朝学習や読書活動に継続して取り組む。また、国語科で学んだことを他の教科等で活用することを通じて、汎用性のある言語能力の育成に取り組む。	・すすくウオッチ、全国学力・学習状況調査の基礎問題の理解度や校内テストで判断する。	・自己評価 ・学校教育アンケート ・授業参観アンケート	10月1月 随時	学校教育アンケート結果の肯定的回答 ○交流する授業 保護者95%→91% ○朝学習 児童 86%→78% ○学習規律 児童 93%→89% ○振り返り 児童 88%→79% ・朝学習に「基礎」の定着や論理的思考力の向上を図る教材を用いている。 ・タブレット端末を利用し、グループ活動などの交流機会や思考力を高める活動を取り入れている。	B	B ・国語力を増すことでコミュニケーション能力の向上は将来的にも役立つことなのでじっくりと取り組んでもらいたい。 ・子どもたちが学んだことを安心して発表できる環境を整えることは学力向上にも居場所づくりにも通じるものがある。不登校対策にも役立つように思うので、さらに進めてもらいたい。
			●思考力・判断力・表現力の基盤となる一人ひとりの「読む力」を育成する。 ●自分の思いや考えを表現する機会を意図的に設定し、交流活動を通じて学び合い、自分の考えを深めることができる授業づくりに取り組む。	・研究授業討議会などの校内研修や年度末の総括において判断する。		10月1月 随時	○	A	
	学習方法の工夫	意欲的に学びに向かう子どもを育てる	★静謐な学習環境のなかで主体的に学びつづけるため、問題解決的な学習過程で取り組むことができるように、問題意識が高まる導入や単元構成を工夫したり、振り返りをして自分の学びを確かめたりする。	・研究授業討議会などの校内研修や年度末の総括において判断する。		10月1月 随時	○	A	A ・タブレット端末の利用と対話的な学習で子どもたちがよりわかりやすい授業づくりに取り組んでもらいたい。
			●1人1台のタブレット端末などICT機器を効果的に活用し、必要な情報を主体的に収集・処理等を行い、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる情報活用能力の育成に取り組む。	・学校教育アンケートにおける教育ICT機器(タブレットや大型テレビ等)に関する設問について肯定的評価90%以上		10月1月 随時		A	A ・情報が過多の時代、問題解決的な学習を学ぶことで解決に必要なものと思うものの区別ができるよう指導を進めてもらいたい。
豊かな心・健やかな体	心の教育	豊かな心を持ち、自尊感情を高め自信をもてる子どもを育てる	●個々の思いや願いに沿った実践を推進し、その過程を支え、自己肯定感、達成感を感じれるようにしたり、物事に最後まで粘り強く取り組む態度を育てる。	・年度末総括で成果を判断する。 ・児童アンケート「自分のいい所に気づき、いろいろなことに挑戦し、自信がもてるようになっていいる」肯定的評価90%以上	・自己評価 ・学校教育アンケート ・授業参観アンケート ・市学習・生活状況調査 ・すすくウオッチ等の調査	10月1月 随時	学校教育アンケート結果の肯定的回答 ○思いやり 児童 97%→93% ○いいところの指導 児童91%→90% ○あいさつ 児童 89%→90% ○廊下をあるく 児童 82%→82% ○進んで行動 児童 93%→93% ○自信 児童 85%→81% ・児童朝会、道徳や特別活動を通じて自尊感情を高める活動の工夫を行っている。 ・学校生活のさまざまな場面でグループ活動や縦割り活動に取り組んでいる。	B	B ・子どもたちがさまざまな活動や体験を通して自己肯定感を高めれるようにご指導を願いたい。その結果子どもたちが自信をもって何事にも取り組めるようになることが将来の成功につながるように思う。
			●多様性を認め、思いやりのある児童を育てるため、人権教育・道徳教育・特別支援教育の充実を図る。 ★一人ひとりの能力や特性を理解し、違いを認め合い、自ら考え判断し進んで行動する態度を育てる。	・年度末総括で成果を判断する。 ・児童アンケート「すすんであいさつ」「すすんで行動」肯定的評価90%以上。		10月1月 随時	○	A	A ・みんなが思いやりをもって生活することは大事なことと思う。災害がいつ発生してもおかしくない時代、これまでに以上に取り組みを進めてもらいたい。
	健康教育・体力向上	基本的な生活習慣を確立し、健康増進・体力を高める	●保健指導・生活調べ・食育を通して健康の大切さを理解させ、家庭と連携を図りながら基本的な生活習慣の確立を図る。	・年度末総括において成果を判断する。 ・学校教育アンケート結果で判断する。		10月1月 随時		B	B ・体育大会では、全校児童の体育学習の成果を発揮する機会や各学年の演技を通じ交流の場を作ることができた。 ・「かけ足記録会」「長縄記録会」を通して、体力や技能を向上させることの大切さを学ぶことができた。
			●新体力テストから児童の体力や運動技能における実態を把握し、体育年間計画に即した授業実践、体育的行事、運動遊びを通して、個人の体力向上を図る。	・年度末総括において成果を判断する。		10月1月 随時	○	A	A ・学校保健委員会を開催し、学校医・PTAから健康に関する意見をいただくことができた。
連携	地域保護者連携	地域協働型教育を推進する	●本校児童の健全な育成にむけて、地域やPTAとの連携を進め、地域協働や教育支援の充実を図る。 ●校報や学校HP等で学校の様子を積極的に発信し、学校・家庭・地域が連携して児童の健全な育成に努める。	・年度末総括において成果を判断する。 ・学校教育アンケート結果で判断する。	自己評価 学校教育アンケート 市学習・生活状況調査	10月1月 随時	○	A	A ・今年度も地域やPTAと協力して校区運動会など多くの行事を開催することができた。子どもたちの健全な成長を願い今後も進めていきたい。 ・学校HPは毎日更新されており、学校の様子がよくわかる。

校長より(年度末) 「個別最適な学び」　今年度、子ども一人一台のタブレット端末を積極的に活用することを心掛けました。子どもがタブレット端末を効果的に活用する場面が多みられ、個に応じた指導支援の在り方を高めていきます。市が進める学びのコンパス、steam教育にも積極的に取り組んでいきます。 「個性や多様性の理解」　児童会や委員会活動を主体とした自己肯定感を高める取組を行いました。また、人権教育に重点的に取り組み、子どもたち一人ひとりに、学校での居場所と出番があり、安心安全に学ぶことができる学校、学級づくりに取り組みます。 「家庭や地域等との連携」　学校内外の専門家と教職員が一体となった支援体制のもと、児童・保護者の悩みに対しても寄り添いながら支援することができました。また、地域の青少年健全育成にかかる行事に取り組むなど地域と連携して子どもの健やかな成長に寄与する活動を行うことができました。	学校関係者評価者から(年度末) 学力向上の取り組みは、朝学習などの基本的な取り組みや研修などに力を入れて積極的に取り組みを進めてくれている。また、成果も上がってきている。心の教育も一人ひとりを大切にすることを念頭にいた取り組みが成果を上げつつある。今後も続けていってもらえればと思う。健康・体力向上面も将来の健康的な生活を見据えて体育的な行事だけでなく日常的に効果的な取り組みを進めてほしい。地域・PTAなどの見守り、健全育成など今後も進めていきたい。
--	---